

基準	学生支援		*各組織における新たな目標または、「2019年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。 *2019年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。	自己評価	根拠資料	内部質保証委員会所見(助言)
<p>項目 ●:点検・評価項目 ○:経歴の視点</p>	<p>①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2020年度期首時点)</p> <p>【現状説明】 1.「学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか」について (1)学生のキャリア支援を行うための体制の整備 ①2020年度は専任職員9名、通年の常勤カウンセラー4名、繁忙期カウンセラー3名、その他の支援カウンセラー(チャレンジ講座2名、2年生全員面談1名、3年生全員面談1名)3名、企業調査1名、受付2名、インターンシップ支援補助1名をキャリアセンターに配置し、全24名の学生支援体制を整えている。 ②専任職員のキャリアカウンセラー資格取得に力を入れ、2020年度4月1日現在の体制は専任職員9名中有資格者5名、研修予定2名となっている。</p> <p>(2)「学生支援は適切に行われているか」について(進路選択に関わる支援やガイダンスの実施) ①4年生支援サイクルの確立 ・4年生を対象とした学内合同企業説明会を、4月から卒業間近の3月まで(8月を除き)毎月実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から4月、5月、6月の開催分を中止とした。しかし、企業説明会の中止が相次ぐ中、学生と企業との新たな接点を提供するため、ICTツールを使ったWEB企業説明会の開催を予定している。 その他に、企業研究・志望動機ポイント講座、面接練習会、奨学金実践面接セミナー、事務職セミナー、求人紹介会など、4年生を対象とした講座やセミナーを、ICTツールを使って直接対面を避けた形で実施していく予定である。 ・就職活動状況を把握するための電話かけを実施する。この電話かけにより4年生の内定状況を逐次把握すると共に、就職活動中の4年生には、キャリアセンターのWEBキャリア面談や4年生対象の就職支援動画視聴等を促す。 ②企業との関係強化と情報収集 2020年度は、例年実施していた年間380件以上の企業訪問を実施出来ない。情報収集のため441社へアンケート調査を実施し、現時点での採用情報や企業毎の感染症予防対策をヒヤリングし、実態把握に努めている。また、感染予防対策が整っていない企業を把握し、それらの企業に対しWEB企業説明会のための動画コンテンツ提供依頼と、Zoomを活用した企業説明会への参加依頼を行う予定である。 これらの活動を通じて企業との関係を継続し、4年生とのマッチングに繋げる。 ③低学年からの意識付け 以下のことを、いずれも「コロナ禍を背景に、最大限健康と安全を配慮すること」を最優先事項とした上で、学生に情報を伝えている。 ・1年生に対する取り組み:1年生全員面談(キャリアガイダンス)の動画配信を通じて「充実した学生生活」が、4年次での就職活動においても大切であることを伝え、大学生活における目標を設定させる。 ・2年生に対する取り組み:2年生全員面談では、動画配信を通じて2年生での学生生活の重要性を伝えている。その後、学生自身に行動計画を考えさせた上でZoomによるマンツーマンのキャリアカウンセリングを実施している。一人ひとりの思いに寄り添いながら、1年生全員面談で各自が設定した目標の進捗確認と新たな目標の再設定を行う。 ・3年生に対する取り組み:3年生全員面談において、就職活動の具体的なスケジュール確認やアクションプランの作成・確認を、キャリアセンタースタッフと共に行う。実施方法についてはICTツールを活用するか否か、現在検討中である。 その他就職ガイダンス、面接セミナー、インターンシップ支援、業界セミナー、企業研究セミナー、学内合同企業説明会を学生の健康と安全に最大限配慮しながら実施予定である。</p> <p>(3)協力団体(卒業生団体等)との連携 ①全国55の奨友会支部に、卒業生による学生就職支援を行うための「就職協力委員」を配置。マスコミ系企業への就職を希望する学生を支援する卒業生団体「奨マスコミ会」をはじめ、「奨流通会」「奨金融会」「税理士奨会」「大倉公認会計士会」という5つの卒業生団体により、各業界を目指す学生を支援する体制ができていた。 ②CSG(キャリアサポートコース)による、充実した資格取得支援と経済支援。また、資格取得の受験料を父母の会が一部負担する「資格取得受験料補助制度」や、資格取得者を表彰する「TKU進一層賞」制度がある。 ③2019年度は体育会と協力し2.3年生対象セミナーにおいて就職支援セミナーを開催した。</p> <p>(4)新就職支援システムの運用・利用促進による就職活動環境の整備 ・2019年度に新就職支援システムを導入した。スマートフォンから求人票、企業情報、インターンシップ情報が検索可能になり、就職活動スケジュールを管理する機能が追加されている。 さらに、2020年度よりコロナ禍の中で学生の利便性並びに安全性を考慮し、「WEB面談のWEB予約システム」を新たに実用化した。学生自身がWEB上での相談予約、キャンセル処理が出来るようになった。 より実用的なシステムとなったため、引き続き学生の利用を促し効果的な就職活動への貢献を期待する。</p> <p>【長所・特色】 ①個別支援体制の充実 キャリアセンターでは、特に学生一人ひとりへの「個別対応」に重点を置いている。 2019年度の個別相談件数は11,464件、電話かけの件数は15,613件となっている。電話掛けにより個別相談や就職支援イベントへの参加を促す事で、10月以降も169名の内定者を出すことができた。こうした個別対応を可能としている要因として、上述した「キャリアカウンセラー体制の充実」があげられる。 2020年度は、大学への入構制限の中いち早くWEBキャリア相談の体制を整え、従来とは異なる就職活動に不安を抱える学生に寄り添う支援を行っている。 ②低学年からの意識付け 上述の通り1年生の履修必修科目である1年次ゼミを利用して、新入生全員にキャリアガイダンスを行い、就職に向けての意識付けを行っている他、2年生及び3年生との全員面談において、更なる意識向上を図っている。 2019年度の1年生キャリアガイダンス参加者数は1,413名、2年生全員面談参加者数1,013名、3年生全員面談参加者数は1,044名であった。 ③在学生ご父母を通じての学生支援 毎年実施している「父母の会支部懇談会」を、2019年度は全国で35回開催し、506名のご父母が参加した。また、年間3回発行される会報「父母の会ニュース」や、父母のための東京経済大学ガイドブックを通じてご父母の方に情報発信を行った。「父母のための就職ガイダンス」も例年通り11月に開催し、約400名が参加した。 2020年度は、コロナ禍により「父母の会支部総会」は中止となる予定だが、「父母の会ニュース」やガイドブックを通じてご父母の方への情報発信は続けていく。 ④豊富な就職支援行事 2019年度、本学では1年生から4年生を対象に、年間798コマの就職支援行事を実施した。</p> <p>【問題点】 1、2019年度から引き継いだ課題 (1)就職支援行事参加者の減少 就職実績の維持には早期からの活動開始を促すことが欠かせない。 2020年度は、例年と異なる実施方法、実施時期での行事開催が増えることが予想されるので、多様な告知(ハガキ、ポータルサイトによる参加勧奨等)により適宜周知徹底に努める。 2、2020年度事業計画において取り上げられている項目 (1)早期からの職業観の涵養 1～3年次における全員面談の推進等により、早期からの職業観の涵養が重要である。 (2)キャリア形成関連授業や他部署との連携 (3)企業・求人開拓の強化 (4)多様化する学生に対するキャリアカウンセリングの向上 (5)卒業生による就職支援組織との更なる連携</p> <p>3、内部質保証委員会からの所見(助言) 学生支援と教養との連携や協働の可能性を探ることを検討願います。 また、大学院生、特に留学生(院生)へのサポート体制の改善・向上を検討願います</p>	<p>①2020年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標</p> <p>【2020年度以降の達成目標】 ・コロナ禍においても、各行事の実施方法の工夫・変更によって、できるだけ今まで実施していた就職支援を継続する方向で検討し、例年と遜色なく必要な情報・スキルが学生に伝わるよう努める。 ・コロナ禍の影響等により、就職活動に行き詰っている4年生に対し、充実した支援策を検討し、長期化を視野に支援していく。 ・今後も企業がWEBによる選考を継続することを想定し、WEB選考に関する情報収集を行い、学生に還元していく。 ・個別相談対応や電話かけ等で、学生一人一人丁寧かつ親身な支援を行う。 ・学生支援と教養との連携・協働の可能性について検討を行う。 ・留学生(大学院生を含む)へのサポートについて、国際交流課、研究課、大学院生の指導教員と連携を取りながら支援を行う。</p>	<p>①2020年度の取り組みとその成果 ②2020年度の取り組み後の問題点(課題)</p> <p><2020年度の取り組みとその成果> 1.2020年度の現状について(2021年1月末時点) (1)学生のキャリア支援を行うための体制の整備 常勤17名、非常勤9名の合計26名の体制を整えた(チャレンジ講座への申込が見込みの3倍以上に増加したため、当初の予定(2名)から2名追加し計4名となった)【資料1】 1名をキャリアカウンセラー資格取得講座に派遣した(予算の関係で2名派遣予定が1名に変更)【資料2】</p> <p>(2)進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ①4年生支援サイクルの確立 ・新型コロナウイルスの影響により、4月～6月は合同企業説明会を開催できなかったが、7月からWEBを利用した合同企業説明会を開催し、その後も8月を除き3月まで毎月開催する予定である。7月から1月までの間で25回開催したべ643名の学生が参加した。【資料3】 ・4年生向けのフォローガイダンスは、7月以降動画配信にて行い、92件の視聴があった。【資料4】 さらに12月に、WEB面接対策セミナーを新たに開催し3名の学生が参加した。【資料5】 ・新型コロナウイルスの影響により、4月～5月は電話かけを実施しなかったが、6月より再開し6695件電話かけを実施した。【資料6】 ②企業との関係強化 ・新型コロナウイルスの影響により、企業訪問は実施できず、さらに例年実施していた「企業と大学の懇談会」は中止とした。その代替として企業採用担当者向けに380件架電し、関係継続のための情報交換を実施した。【資料7】 ・5月に441社の企業宛てにアンケートを行い、150社から回答があった。さらに、11月にも1,560社の企業宛てにアンケートを行い、510社からの回答があった。【資料8】 企業への架電やアンケートから収集した採用継続の情報を学生に紹介し、合同企業説明会案内等に活用した。 ③低学年からの意識付け ・1年次ゼミ授業内における「キャリアガイダンス」は動画配信にて行い、動画視聴後アンケートを実施した(1347件)。【資料9】 ・2年生全員面談は、動画配信+WEB個別面談という方法で行い、1,133名の学生が動画を視聴した。【資料10】 ・3年生全員面談は、動画配信+WEB面談という方法で行い、1,234名の学生が動画を視聴した。用意したWEB面談予約枠がすべて埋まり、その後は通常の個別面談で対応した。【資料11】 ・3年生向けに就活チャレンジ講座をWEBを利用した形で企画し、157名の申し込みがあった(昨年38名)。2コース制、4クラスを用意して申込者全員を受け入れ、全12回の支援を行った。【資料12】 ・その他の就職ガイダンス、就職面接セミナー、インターンシップ支援、業界・企業セミナーは全てWEBを利用して実施した。2月以降の企業研究セミナー、合同企業説明会もWEB開催を予定している。【資料13】</p> <p>(3)協力団体(卒業生団体等)との連携 ①全国55の奨友会支部に配置している「就職協力委員(卒業生)」が参加する就職協力は、新型コロナウイルスの影響により対面による開催はせず、資料を送付し情報共有を行った。【資料14】 ・「奨マスコミ会」「奨流通会」「奨金融会」では、対面による卒業生と学生との懇談会は開催せず、代わりにWEBを利用した懇談会・相談会を開催した。奨マスコミ会:39名、奨流通会29名、奨金融会56名の学生が参加した。【資料15】 ・「税理士奨会」「大倉公認会計士会」は、新型コロナウイルスの影響により、支援行事は開催されなかった。 ②資格取得を促すため、父母の会では検定料補助料制度を設けている。 資格取得者を表彰する「TKU進一層賞」制度により、多くの資格取得者を励まし、その努力を評価している。【資料16】 ③2020年度は体育会から就職支援セミナー等の依頼はなかった。</p> <p>(4)新就職支援システムの運用・利用促進による就職活動環境の整備 ・2020年度より、面談のWEB予約を開始した。WEB予約を可能にすることで、WEB面談の招待URLやミーティングID等の送信もスムーズに行うことが可能となった。【資料17】 ・メール配信機能を活用し、対象の学生への支援行事の告知等を積極的に行った。【資料18】 ・9月より学生の要望に合わせて、感染防止の観点から面談枠を制限した上で対面面談も再開し、電話による予約を受け付けた。【資料17】</p> <p>2.問題点への対応 (1)1、2019年度から引き継いだ課題 ①就職支援行事参加者の減少 ・多様な告知(ハガキ、TKUポータル、電話かけ)により、参加勧奨を行った。さらに、教員向けに学内グループウェアを利用し、ゼミや授業内での支援行事告知の協力をお願いを行った。【資料31】 ・動画配信のみの支援行事は、視聴数が伸び悩む傾向であったが、WEBを利用したリアルタイムの支援行事(合同企業説明会等)については、参加しやすいくとも影響したと思われる、前年度より参加者数が増加した行事が多かった。合同企業説明会7月～1月の参加者は計643名となり、昨年比530名の増であった。【資料3】 (2)2、2020年度事業計画において取り上げられている項目 ①職業観の涵養 ・1年次ゼミ授業内において「キャリアガイダンス」を実施。1,347名が参加(7/1現在1年生在学学生比、83.8%が参加)。【資料9】 ・2年次生を対象に「2年生全員面談」を実施。1,133名が動画視聴(7/1現在2年生在学学生比、74.8%が視聴)。【資料10】 ・3年次生を対象に「3年生全員面談」を実施。1,234名が動画視聴(12/1現在3年生在学学生比、76.1%が視聴)。【資料11】 ②キャリア形成関連授業や他部署との連携 ・新型コロナウイルスの影響により、2020年度のインターンシップ科目は開講されなかった。 ・障がいのある学生や心理面でサポートが必要な学生の支援として、キャリアセンターと学生相談室が連携して相談にあっている。【資料19】 ・留学生(大学院生を含む)について、国際交流課、研究課、大学院生の指導教員と連携し、支援行事の告知勧奨や、就職活動状況の把握等、情報共有しながら支援を行っている。【資料20】 ③企業・求人開拓の強化 ・新型コロナウイルスの影響により、2020年度は企業訪問を実施できなかった。 ・7月より企業への380件の架電により情報交換を行い、求人情報を収集した。【資料7】 ④多様化する学生に対するキャリアカウンセリングの向上 キャリアカウンセリング能力の向上に向け、専任職員にキャリアカウンセラー(国家資格またはCDA等)資格取得を推進。 9月末現在、専任職員9名中5名が資格合格、1名をCDA研修に派遣した。【資料2】 この他にも、他大学キャリアセンターとの交流や、WEBを利用した各種研修会に参加し、個々のスキル向上に励んでいる。【資料21】 ⑤卒業生による就職支援組織との更なる連携 全国55の奨友会支部に、卒業生による学生就職支援を行うための「就職協力委員」を配置。 マスコミ系企業への就職を希望する学生を支援する卒業生団体「奨マスコミ会」をはじめ、「奨流通会」「奨金融会」「税理士奨会」「大倉公認会計士会」という5つの卒業生団体により、各業界を目指す学生を支援する体制ができていた。 2020年度はWEBを利用して、支援行事を実施した。今後も感染状況等を踏まえ、WEBも利用しながら卒業生との接する機会の検討を行う。【資料15】</p> <p>3.内部質保証委員会からの所見(助言) (1)「学生支援と教養との連携や協働の可能性を探ることを検討願います。また、大学院生、特に留学生(院生)へのサポート体制の改善・向上を検討願います。」についての対応 ①教養との連携 ・1年次ゼミ授業内における「キャリアガイダンス」については、上記1(1)～(2)に記載。 ・2年次以上のゼミにおいて、教員からの依頼により、ゼミに出張しキャリアに関するガイダンスを行った。【資料22】 ・経営学部「アカデミック・コンパス」の授業内において、就職状況等について説明を行った。【資料23】 ・留学生への支援については、上記2-(2)～②に記載。 ②教養との連携の検討 ・就職委員会の中で、学生支援会議が主導して、主にキャリア系の授業を担当している教員に講演会やワークショップの開催を依頼し、本学で実施している教育が学生の就業力育成にどのように貢献しているか、あるいは貢献しうるかについて情報を共有する場を設ける提案を行い、意見交換を行った。【資料24】 ・学生支援会議の中でも同様の提案を行い、方向性について了承された。【資料25】 ・2021年度開催に向けて、引き続き内容、開催時期等を検討していく。</p> <p><2020年度の取り組み後の問題点(課題)について> ・感染防止対策を取りつつ、対面実施に向けた体制作り(キャリアセンターの面談ブースレイアウト変更や、予約受付体制など)。 ・コロナ禍における支援内容・開催方法の検討・実施。 ・就職支援行事への参加を促す取り組み。</p>	<p>A</p> <p>左記資料番号をご参照ください</p> <p>助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。今後は対面とオンラインの共存対応が求められますが、それぞれのメリットを活かした学生満足度の高い就職支援活動を展開してください。</p>		

2020年度 自己点検・評価シート

就職委員会

基準	学生支援
----	------

*各組織における新たな目標または、「2019年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
*2019年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:経歴の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2020年度期首時点)	①2020年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2020年度の取り組みとその成果 ②2020年度の取り組み後の問題点(課題)	自己評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
① ●学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。 ○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上	【現状説明】 1、「学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか」について (1) 就職状況については、就職委員会を中心に定期的な検証を行っている。 合わせて、以下の会議体等で就職状況報告と共に教職員より意見等を聴取し、改善・向上に向けた取り組みを行っている。 ①各教授会 ②理事会 ③評議員会 ④常務理事会 ⑤学生支援会議 ⑥事務局会議 ⑦インターンシップ推進委員会 ⑧奨学金会 幹事会 ⑨奨励通会 幹事会 ⑩キャリアセンターミーティング ⑪企業調査ミーティング等 感染症予防のため、一部開催方法等が通常と異なる場合がある。 (2) 2019年度の就職状況報告 こうした支援の結果、2020年3月卒業生の就職希望者就職率(就職希望者のみを分母とした就職率、就職希望者就職率=就職決定者数/(進路判明者数-就職を希望しない者の数))は96.7%で、前年度(95.9%)より0.8ポイントのプラスとなった。また、卒業生就職率(卒業生全員を分母とした就職率)は87.4%で、前年度(87.7%)比0.3ポイントのマイナスとなった。内訳は「正規社員」就職率85.9%、「非正規社員」就職率1.5%、「非正規社員」就職者は人数にすると21名であった。 【長所・特色】 1、就職委員会の構成員には、学内教職員だけでなく、学外より2名の有識者(本学卒業生団体「奨友会」役員)を置き、意見等をいただいている。 【問題点】 1、2019年度から引き継いだ課題 ①大卒求人倍率が安定していることもあり、就職率はここ数年、安定していた。しかし、コロナ禍の影響により悲観的な社会状況予測もあり、業界によっては企業の新卒採用意欲が大きく減退する事が予想される。それに備え、採用動向の情報収集等、企業との連携を「維持」していく必要がある。 ②採用活動の時期もその方法も、従来通りとは大きく異なる状況となっているため、学生の不利益とならないよう全員面談やガイダンス等を通じて、収集した情報を適切に還元する必要がある。 2、内部質保証委員会からの所見(助言) 助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。	【2020年度以降の達成目標】 ・今年度新たに実施したWEBを利用した支援行事について、それぞれの利点・効果等を検証する。 ・対面による支援が実施できる状況になった場合でも、今後ますます発展する可能性のあるWEB採用に備えることや、より効果的な実施方法を検討する。 ・個別相談対応や電話かけ等で、学生一人一人丁寧かつ親身な支援を行い、コロナ禍で就職することを諦めてしまう学生をできる限り少なく、希望者就職率・卒業生就職率が大幅に下がることのないよう最後まで学生支援を継続する。	<2020年度の取り組みとその成果> 1、2020年度の現状について (1)就職状況については、就職委員会を中心に検証を行い、各学部・センター教授会、理事会、事務局会議等でも定期的に中間報告を行っている。 (2)2020年度の就職状況報告(2021年1月末現在) ・2021年3月卒業生の卒業生就職率(卒業生数(予想)を分母とした就職率)は83.8%で、前年同時期(82.8%)比1.0ポイントの増となった。また、就職希望者就職率(就職希望者のみを分母とした就職率、就職希望者=内定者/進路判明者-就職を希望しない者)は、79.6%で、前年度(81.5%)より1.9ポイントの減となった。【資料26】 2、問題点への対応 (1)2019年度から引き継いだ課題について ①採用動向の情報収集、企業との連携について ・コロナの影響により、企業訪問は実施できず、「企業と大学との懇談会」についても開催を取りやめた。【資料8】 ・企業の採用動向等の情報を収集するため、5月に441社、11月に1,560社、アンケート調査を行った。【資料8】 ・7月より、企業に380件架電し、情報収集も行った。【資料7】 ・アンケートや架電によって得た採用継続の情報をともに、企業向けには合同企業説明会の案内を送り、学生の就職支援につなげた。 ②就職活動時期について ・新型コロナウイルスの感染状況やオリンピック開催による影響がどのように就職活動時期に影響を与えるか不透明な状況であるが、早期に採用を開始する企業にも対応できるよう早めの準備・行動が大切である旨は、就職ガイダンスや3年生全員面談等で繰り返し伝えた。【資料27】 (2)内部質保証委員会からの所見(助言)について ・2019年度、指摘事項は無かった。	A	左記資料番号をご参照ください	助言等は特にありません。引き続き改善・向上に努めてください。

2020年度 自己点検・評価シート

就職委員会

基準11 教学ビジョン(4つのクオリティ)

*各組織における新たな目標または、「2019年度時点の問題点(課題)」の改善に向けた目標を設定してください。
*2019年度の取り組みに対して内部質保証委員会の「所見」が付されている場合には、その改善に向けた目標を設定してください。

項目 (●:点検・評価項目 ○:評価の視点)	①現状説明、②長所・特色、③問題点 (2020年度期首時点)	①2020年度以降の達成目標(*) ②達成度を測るための客観的な指標	①2020年度の取り組みとその成果 ②2020年度の取り組み後の問題点(課題)	自己 評価	根拠資料	内部質保証委員会 所見(助言)
<p>●教学ビジョンの実現に向け、キャリア・クオリティを向上させる取り組みが行われているか ○各組織の長所・特色となるような取り組みの実施</p>	<p>[現状説明] 1、「教学ビジョンの実現に向け、キャリア・クオリティを向上させる取り組みが行われているか」について (1)1年次から始まる多彩な就職支援 1年生の履修必修科目である1年次ゼミを利用してキャリアガイダンスを行い、就職に向けての意識付けを行っている。 2019年度の1年生キャリアガイダンス参加者数は1,413名であった。 2020年度は動画配信を通じて、「充実した学生生活」が4年次での就職活動においても大切であることを伝え、大学生活における目標を設定させている。 (2)質の高い就職実績 2020年3月卒業生の就職希望者就職率は96.7%で、正社員としての採用率は就職率98.3%であった。 (3)新就職支援システム導入による就職活動環境の充実 2019年度より新就職支援システムを導入した。 さらに、2020年度よりコロナ禍の中で学生の利便性並びに安全性を考慮し、「WEB面談のWEB予約システム」を新たに実用化した。 学生自身がWEB上での相談予約、キャンセル処理が出来るようになった。</p> <p>[長所・特色] ①「充実した低学年支援」 2019年度は1年生全員面談、2年生全員面談で合計2,426名が参加した。 ②「インターンシップ」等の充実したキャリア形成プログラム 各学部の授業として「インターンシップ」を実施し、単位認定している他、キャリアセンターでも「インターンシップ」をサポートしており、2019年度は150名を送り出している。</p> <p>[問題点] 1、2019年度から引き継いだ課題 ・2019年度における教学との連携は必ずしも充分とは言えないが、全学教務委員会委員長や経済学部特命講師との面談は良いきっかけとなった。 2020年度においても、教学との連携について継続して検討していきたい。 2、2019年度事業計画において取り上げられている項目 (1)キャリア形成関連授業や他部署との連携の促進 ・各学部のキャリア形成科目との連携、また、キャリアセンターと学生相談室・国際交流課等との連携を更に促進する。 3、内部質保証委員会からの所見(助言) (1)教学と学生支援の連携の可能性を追求しつつ、事業計画に基づきPDCAを回してください。</p>	<p>[2020年度以降の達成目標] ・コロナ禍においても、動画やWEBを利用し1年次からの支援行事を継続して実施し、例年と遜色なく必要な情報が学生に伝わるよう努める。 ・新就職支援システムについて、担当者2名配置しシステム面を支える人員を養成しつつ、WEBを利用した新しいシステムや機能等について、情報収集・情報共有に努め、支援行事に活用していく。 ・教学との連携の可能性について引き続き検討していく。</p>	<p><2020年度の取り組みとその成果> 1. 2020年度の現状について (1)1年次から始まる多彩な就職支援 ・4年間を通じて、段階的・継続的なキャリア教育を行っている。 ・2020年度の1年次キャリアガイダンスは授業内で動画配信にて「充実した学生生活」が4年次での就職活動においても大切であることを伝え、動画視聴後に提出するアンケートで大学生活における目標を設定させた(アンケート回答数1,347件)。【資料9】 (2)質の高い就職実績 ・2021年3月卒業生の就職希望者就職率は79.6%で、卒業生(見込み)就職率は83.8%であった(2021年1月末現在)。【資料26】 ・4年生の支援について、卒業する3月まで継続して行う。 ・卒業時に実施している「就職先に関する満足度」の調査では、高い満足度を維持している。 ※「満足、どちらかと言えば満足の割合」2018年度卒:95.0%、2019年度卒:94.1%【資料28】 (3)新就職支援システム導入による就職活動環境の充実 ・2020年度より「WEB予約システム」を導入し、学生の利便性が向上した。前日に予約確認メールが自動送信され、当日にはメール送信機能を利用し、WEB面談実施のための招待URLやミーティングID等を学生に送信した。【資料29】 ・学生自身がWEB予約申込時に、添削してほしい書類を添付することができ、面談対応者が事前に確認することで、面談時間の有効活用につながった。【資料17】</p> <p>2. 問題点への対応 (1)2019年度から引き継いだ課題について ・教学との連携については、就職委員会、学生支援会議の中で、意見交換を行った。【資料24、25】 ・本学で実施している教育が学生の就業力育成にどのように貢献しているか等について情報を共有する場(講演会等)の開催に向けて検討していく。 (2)2019年度事業計画において取り上げられている項目 ①キャリア形成関連授業や他部署との連携の促進 ・経営学部「アカデミック・コンパス」の授業内において、キャリアセンター職員が就職状況等について説明を行った。【資料23】 ・教員からの依頼により、2年生以上のゼミへ出張し、キャリアに関するガイダンスを行った。【資料22】 ・ゼミ毎の就職状況調査を実施し4年生の内定状況把握を行った。【資料30】 ・キャリア支援行事への学生参加を促すために、学内グループウェアを利用し、教員に授業やゼミ等で学生参加を促すよう協力を依頼した。【資料31】 ・相談の内容により、学生相談室とキャリアセンターが連携しながら支援を行った。【資料19】 ・留学生支援では、国際交流課と連携しながら支援を行った。【資料20】 (3)内部質保証委員会からの所見(助言)について ①教学と学生支援の連携の可能性を追求しつつ、事業計画に基づきPDCAを回してください。 ・今後も事業計画に基づきPDCAを回していく。 ・教学との連携の可能性については、就職委員会の中で引き続き検討していく。</p> <p><2020年度の取り組み後の問題点(課題)について> ・今後も部内目標と事業計画、教学ビジョン(ロードマップ)の連携を図り、PDCAの対象としていく。</p>	<p>A</p>	<p>左記資料番号をご参照ください</p>	<p>今後は第2次中期計画および事業計画に基づきPDCAを回してください。</p>

③